

2006年11月8日



2007年3月期中間決算の概要

東レ株式会社
代表取締役社長 榊原定征

目次

・ 2007年3月期中間決算の概要

2007年3月期中間期業績の概要	(P4)
売上高・営業利益の推移	(P5)
営業外収支	(P6)
特別損益	(P7)
資産・負債・純資産	(P8)
設備投資額・減価償却費	(P9)
事業セグメント別業績	(P10-17)
事業セグメント別1Q時見通しと実績比較	(P18)
営業利益増減要因分析	(P19)

・ 2007年3月期通期見通し

連結業績見通し	(P21)
事業セグメント別業績見通し	(P22)
事業セグメント別上下営業利益比較	(P23)
原料価格の見通し	(P24)
情報通信材料・機器事業の見通し	(P25)
炭素繊維用途別需要推移と 当社生産能力推移	(P26)
設備投資額・減価償却費 研究開発費見通し	(P27)

・ 最近のトピックス

トピックス	(P29-31)
< 参考資料 >	(P33-39)



2007年3月期中間決算の概要

2007年3月期中間期業績の概要

単位:億円

	06年3月期中間期	07年3月期中間期	増減
売上高	6,788	7,462	+674 (+9.9%)
売上原価	5,367	5,941	+573 (+10.7%)
売上総利益	1,421	1,521	+101 (+7.1%)
(売上高総利益率)	20.9%	20.4%	-0.5 ポイント
販売費及び一般管理費	1,032	1,092	+60 (+5.8%)
(売上高販管費比率)	15.2%	14.6%	-0.6 ポイント
営業利益	388	429	+41 (+10.5%)
(売上高営業利益率)	5.7%	5.7%	+0.0 ポイント
営業外収支	20	24	-4 (-)
経常利益	368	405	+37 (+10.1%)
特別損益	60	111	-51 (-)
税前利益	309	294	-14 (-4.6%)
中間純利益	168	280	+113 (+67.5%)

1株当たり中間純利益	11.96円	20.03円
1株当たり中間配当金	4.0円	5.0円

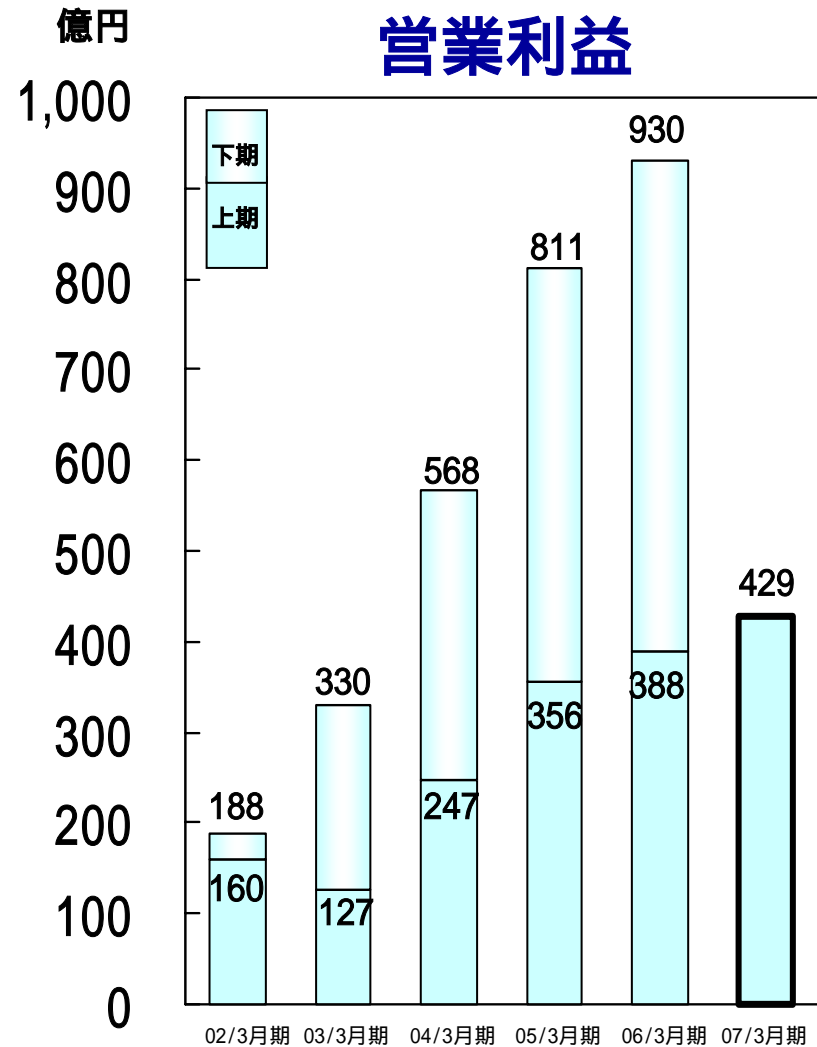
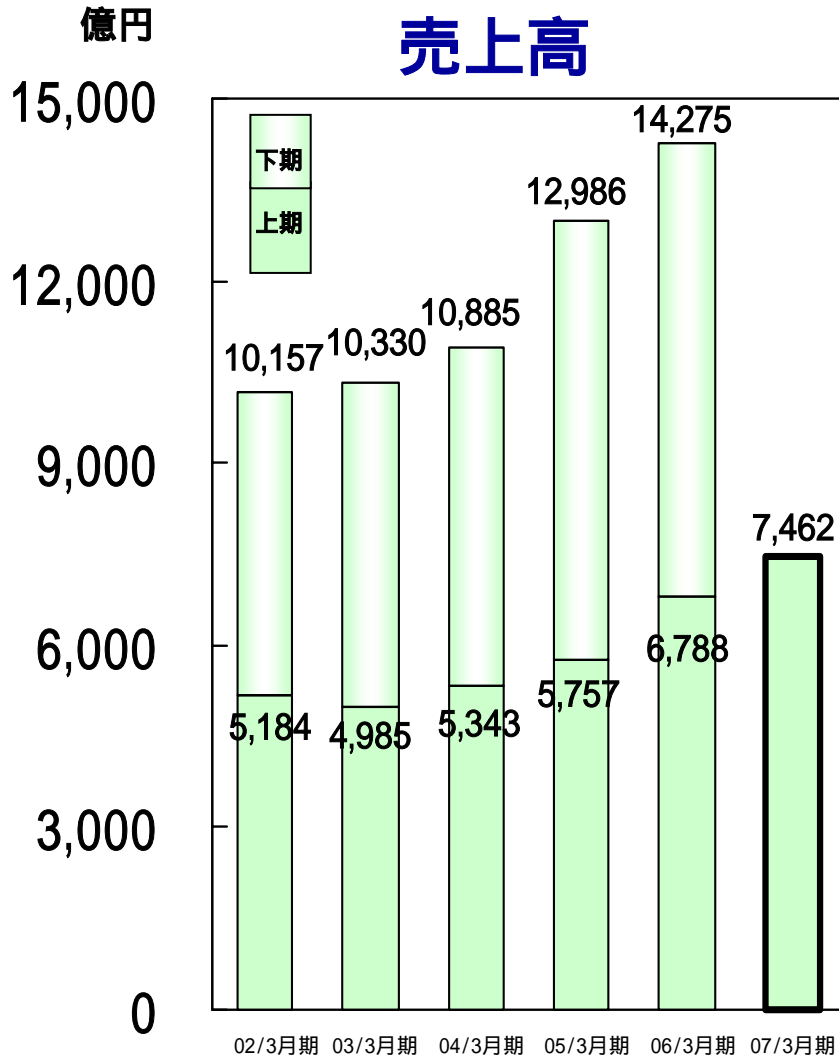
	06年3月末	06年9月末	増減
総資産	15,374	15,618	+244
負債合計	9,467	9,571	+104
少数株主持分	537	-	-
資本合計	5,370	-	-
純資産合計	-	6,047	-
有利子負債残高	4,844	5,074	+230

為替レート

		(前中間期)	(当中間期)
<円/US\$>	期中平均	: 109.5	115.4
	期末	: 113.2	117.9
		(前中間期)	(当中間期)
<円/ユーロ>	期中平均	: 135.6	146.0
	期末	: 136.1	149.8

(注) 3月期決算会社は4～9月の業績, 12月期決算会社は1～6月の業績を連結

売上高・営業利益の推移



営業外収支

億円

	06年3月期 中間期	07年3月期 中間期	増減	特記事項
営業外収益	62	88	+26	
受取利息及び配当金	14	15	+2	
持分法による投資利益	21	40	+19	国内関連会社の収益拡大等
雑収益	28	33	+5	
営業外費用	83	112	-29	
支払利息	39	45	-6	
雑損失	44	67	-24	新規設備操業開始に伴う試運転等の費用増加
営業外収支	20	24	-4	
金融収支	25	29	-4	
雑収支	16	35	-19	

注) 収益はプラス、費用はマイナス()で表示

特別損益

億円

	06年3月期 中間期	07年3月期 中間期	増減	特記事項
特別利益	21	64	+43	
有形固定資産売却益	5	6	+1	
投資有価証券売却益	16	58	+43	保有意義の低下した株式の売却等
特別損失	80	175	-94	
有形固定資産売却廃棄損	14	16	-3	
減損損失	17	128	-111	子会社の固定資産の減損
投資有価証券評価損	1	1	-0	
関係会社整理・評価損	9	14	-5	
構造改善費用	5	9	-3	
退職給付制度改定損失	14	-	+14	
在外子会社退職給付引当損	19	6	+13	
その他	1	0	+1	
ネット特別損益	60	111	-51	

注) 収益はプラス、費用はマイナス()で表示

資産・負債・純資産

億円

	06年3月末	06年9月末	増減	特記事項
資産合計	15,374	15,618	+244	
流動資産	6,623	6,866	+243	棚卸資産の増加等
有形固定資産	5,862	5,949	+87	
無形固定資産	115	123	+8	
投資その他	2,774	2,681	-93	

	06年3月末	06年9月末	増減	特記事項
負債合計	9,467	9,571	+104	
流動負債	5,379	5,893	+514	借入金の増加等
固定負債	4,088	3,678	-411	長期借入金および繰延税金負債の減少等
少数株主持分	537	-	-	
資本合計	5,370	-	-	
純資産合計	-	6,047	-	
有利子負債残高	4,844	5,074	+230	設備投資の増加等
D / Eレシオ*	0.90	0.92	+0.02	

*06年3月末は、有利子負債残高 / 資本合計

06年9月末は、有利子負債残高 / 自己資本 (自己資本 = 純資産 - 少数株主持分)

設備投資額・減価償却費

億円

	06年3月期 中間期	07年3月期 中間期	増減	特記事項
設備投資額	318	514	+195	東レ:221、国内:46、海外:247
減価償却費 -)	304	334	+30	東レ:130、国内:49、海外:156
振替・除却等	24	93	-117	
有形固定資産増減	38	87		

主な設備投資：

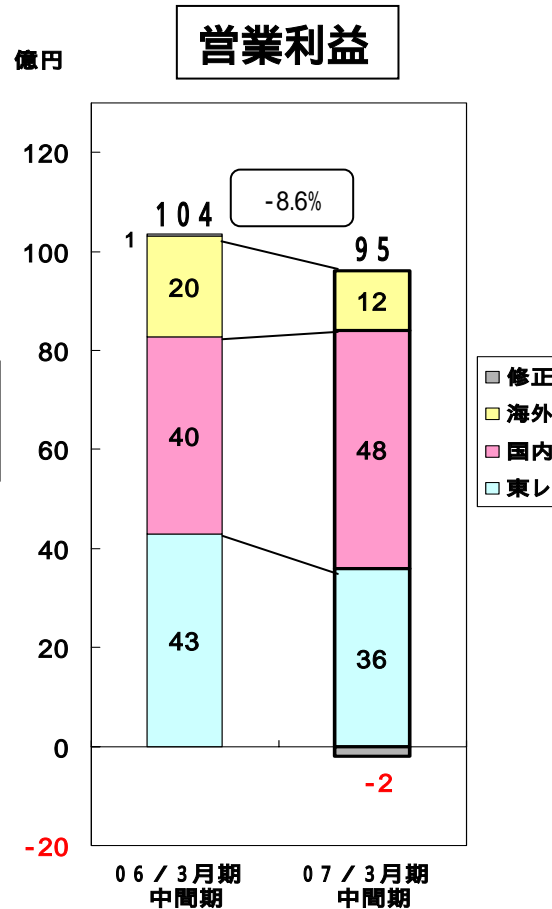
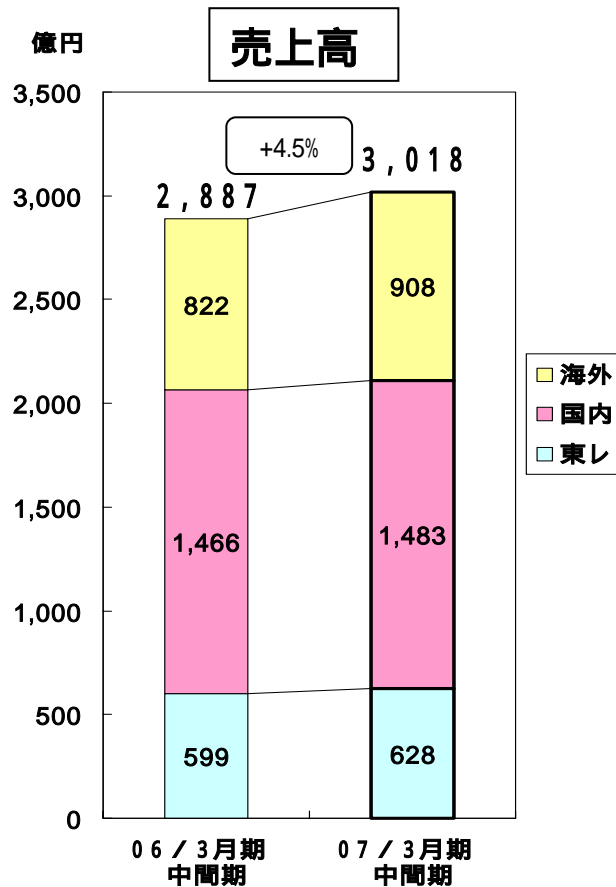
<国内> 東レ	:炭素繊維・プリプレグ設備	2007年1月稼働予定
<海外> SOFICAR	:炭素繊維設備(フランス)	2007年8月稼働予定
TSI	:フィルム加工設備(韓国)	2006年3月稼働
TJQ	:ポリエステル・綿混織物設備(中国)	2006年4月稼働

事業セグメント別売上高・営業利益

単位: 億円

	売上高			営業利益		
	06年3月期 中間期	07年3月期 中間期	増減	06年3月期 中間期	07年3月期 中間期	増減
繊維	2,887	3,018	+131 (+4.5%)	104	95	-9 (-8.6%)
プラスチック・ケミカル	1,588	1,846	+258 (+16.2%)	86	87	+0 (+0.5%)
情報通信材料・機器	1,111	1,278	+166 (+15.0%)	131	145	+14 (+10.9%)
炭素繊維複合材料	244	319	+75 (+30.7%)	59	88	+29 (+49.8%)
環境・エンジニアリング	619	678	+59 (+9.5%)	12	1	+13 (-)
ライセンスその他	337	323	-14 (-4.3%)	20	20	-1 (-2.6%)
(内医薬・医療材)	203	200	-3 (-1.6%)	6	6	-0 (-6.3%)
計	6,788	7,462	+674 (+9.9%)	388	436	+47 (+12.2%)
消去又は全社				0	7	-7
連結	6,788	7,462	+674 (+9.9%)	388	429	+41 (+10.5%)

事業セグメント別業績(繊維)



特記事項

東レ

テキスタイルが輸出を中心に好調に推移したが、全体としては原燃料価格高騰の影響を価格転嫁と高付加価値品へのシフトでカバー仕切れず、減益。

国内子会社

商事子会社が拡販に努め、増収増益。

海外子会社

中国事業の改善が進むも、インドネシア事業が燃料価格高騰の影響を強く受け、英国子会社の不振等もあり、増収減益。

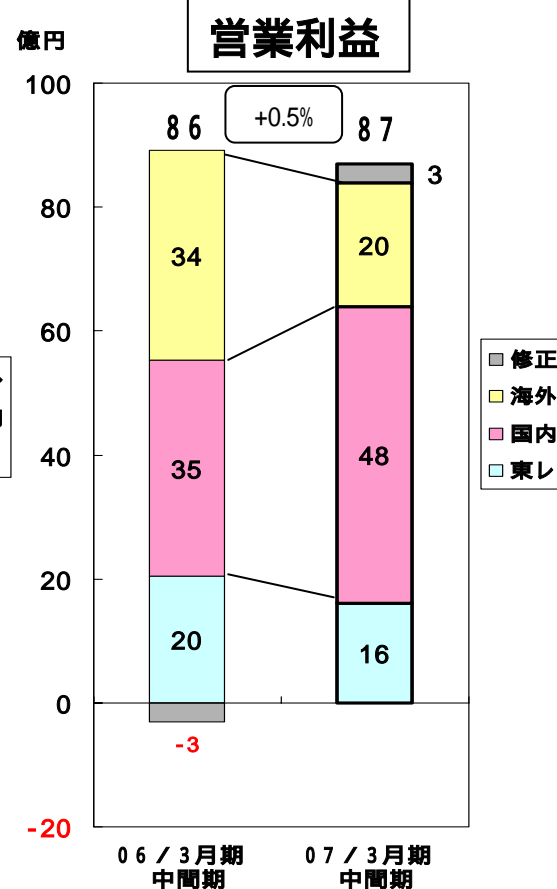
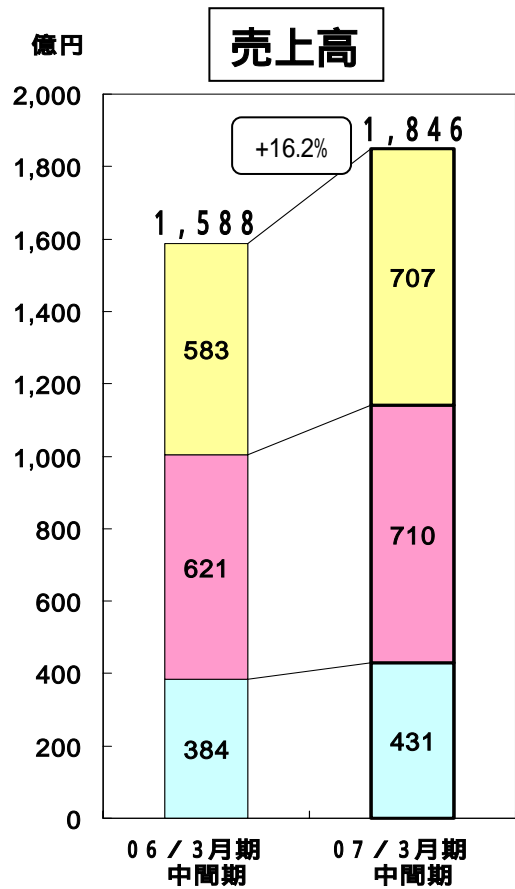
< 主要関係会社 >

国内：東レインターナショナル、一村産業、蝶理 他

アジア：PENFABRIC(マレーシア)、LUCKYTEX(タイ)、ITS(インドネシア)、TFNL(中国) 他

欧米：ALCANTARA(イタリア) 他

事業セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)



特記事項

東レ

樹脂は自動車用途を中心に、フィルムは工業材料用途を中心に拡販し、増収。原燃料価格高騰の影響等もあり、減益。

国内子会社

樹脂・フィルム・ケミカル・商事の各子会社とも堅調に推移し、増収増益。

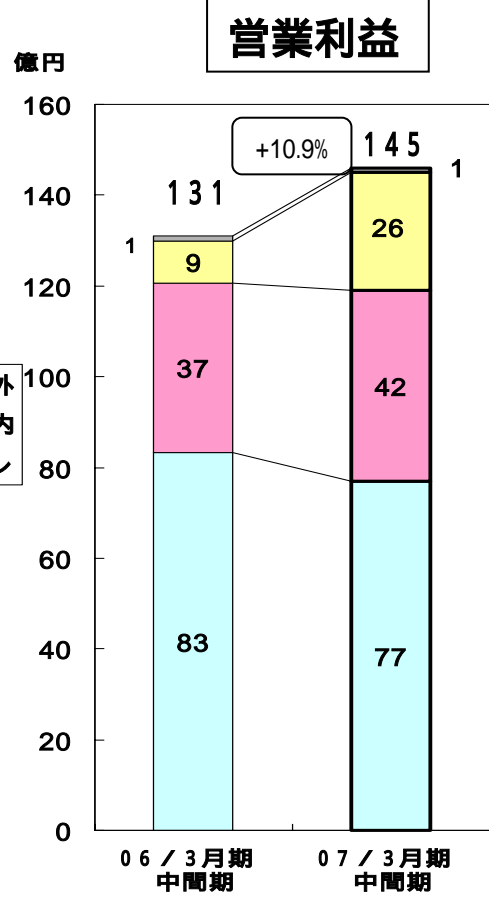
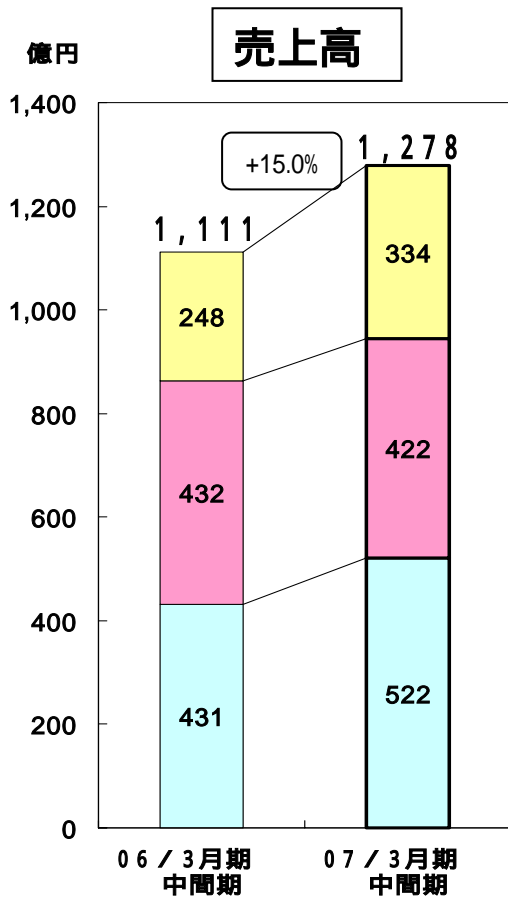
海外子会社

中国樹脂子会社や米国フィルム子会社が拡販に努めたこと等により、増収。韓国フィルム子会社が情報通信材料用途へのシフトを戦略的に推進したことと欧州フィルム子会社不振等により、減益。

< 主要関係会社 >

国内：東レフィルム加工、東レ・ファインケミカル、曾田香料、蝶理 他
 海外：TPA(アメリカ)、TPM(マレーシア)、TPEu(フランス)、TSI(韓国) 他

事業セグメント別業績 (情報通信材料・機器)



特記事項

東レ

IT関連樹脂・フィルム、PDP関連材料、半導体関連材料等の拡販を進め、増収。カラーフィルターの競争激化による価格低下の影響、及びPETフィルムの原燃料価格高騰の影響等もあり、減益。

国内子会社

フィルム加工子会社は拡販を進め、増収増益も、商事子会社が減収となり、全体では、減収増益。

海外子会社

韓国子会社のFPD・電子部品関連フィルムの拡販等により、増収増益。

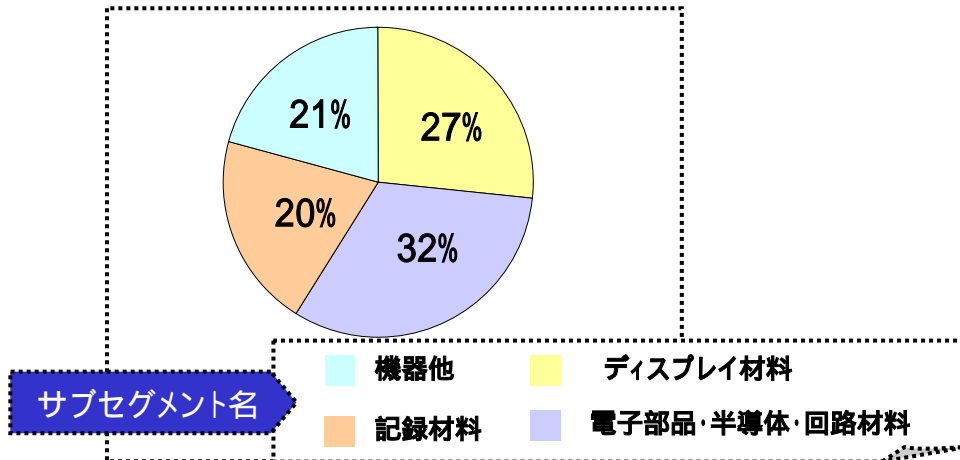
< 主要関係会社 >

国内：東レエンジニアリング、東レフィルム加工 他

海外：TPA(アメリカ)、TPEu(フランス)、TSI(韓国)、STEMCO(韓国)他

情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

【07年3月期中間期サブセグメント別売上高比率】



* 上記比率は小数点以下1位を四捨五入して表記しております。

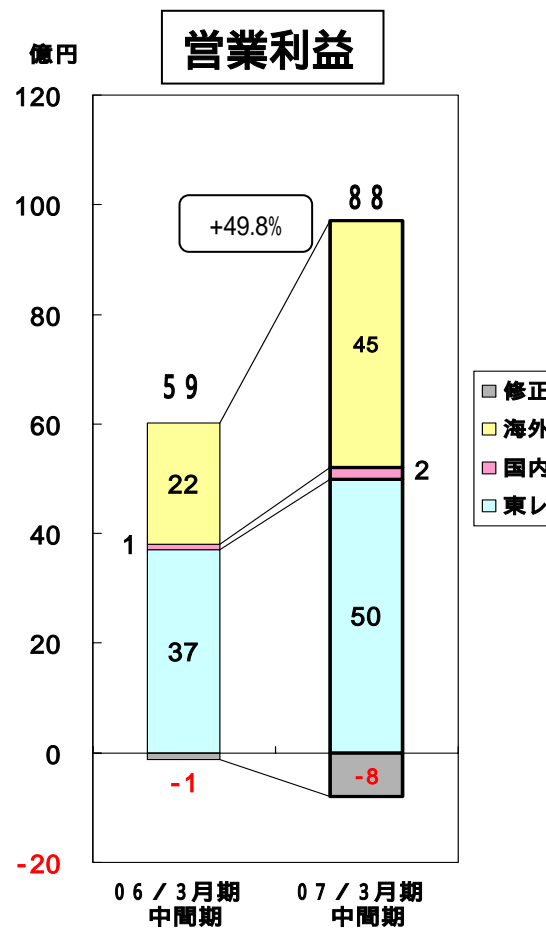
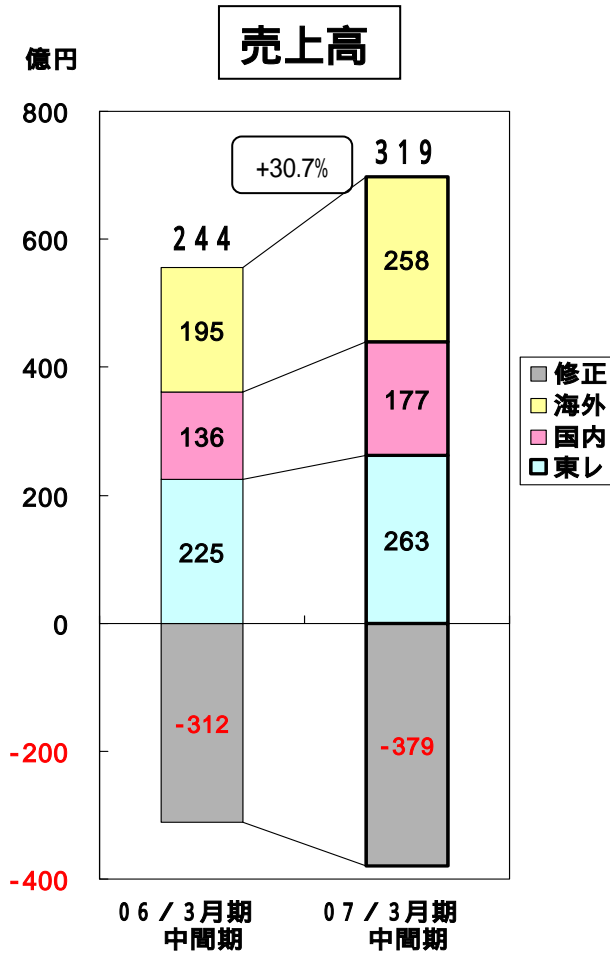
【サブセグメント別売上高推移】

単位: 億円

	06年3月期中間期	07年3月期中間期	増減率
ディスプレイ材料	237	341	+44%
電子部品・半導体・回路材料	334	411	+23%
記録材料	263	260	-1%
機器他	278	266	-4%
情報通信材料・機器セグメント合計	1,111	1,278	+15%

サブセグメント名	内訳
ディスプレイ材料	光学用フィルム、光学用フィルム加工品、PDPペースト、カラーフィルター、カラーフィルター用ペースト、ケミカル材料、有機EL材料他
電子部品・半導体・回路材料	電子部品・回路用フィルム、FPC用銅張ポリイミドフィルム、TAB用接着テープ、半導体・電子部品用接着シート、半導体コーティング材料、CMPパッド、2層銅張ポリイミドフィルム、TABテープ・COF加工品、樹脂材料、樹脂加工品他
記録材料	磁気材料、TTR (Thermal Transfer Ribbon)・受容紙用フィルム、印刷システム材料他
機器他	液晶スリットコーター、ダイボンディング装置、検査装置、PDP用装置・部品、商社、システム、サービス他

事業セグメント別業績 (炭素繊維複合材料)



特記事項

東レ

航空機用途、産業用途とも順調に拡大する需要に対応し、炭素繊維、中間基材、成型品それぞれ拡販に努め、増収増益。

国内子会社

商事子会社が順調に拡販を進め、増収増益。

海外子会社

航空機用途、産業用途とも順調に需要が拡大し、1月に増設設備が稼働した米国子会社の増産効果もあり、増収増益。

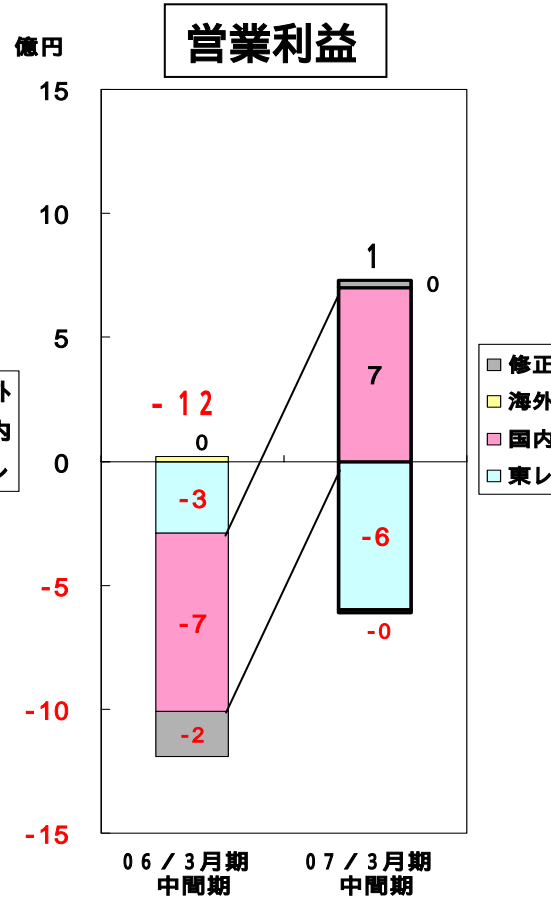
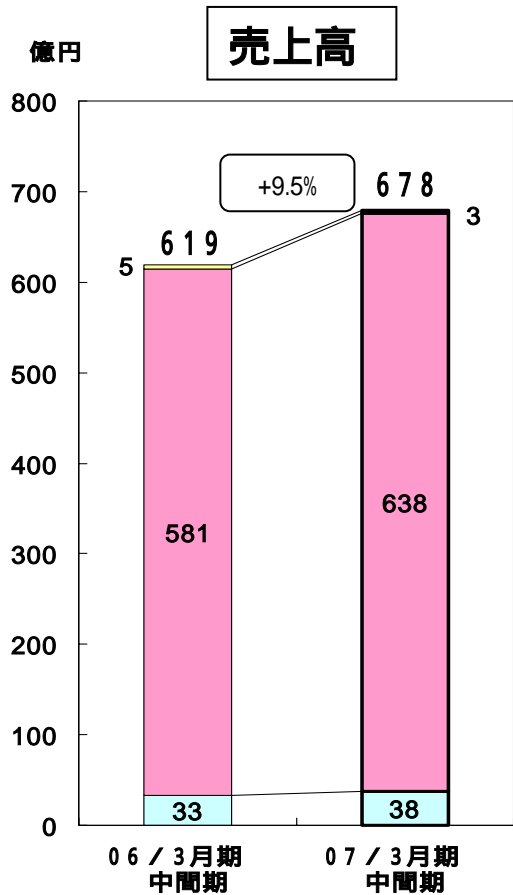
本セグメントでは、日米欧3拠点のグローバルオペレーションの規模が大きく、実態を正しく表すために、内部売上高の消去を外枠で記載しています。

< 主要子会社 >

国内：東レインターナショナル

海外：SOFICAR (フランス)、CFA (アメリカ)、TCA (アメリカ)

事業セグメント別業績(環境・エンジニアリング)



特記事項

東レ

水処理事業が逆浸透膜等の拡販を進め増収となるも、開発費の増加等もあり、減益。

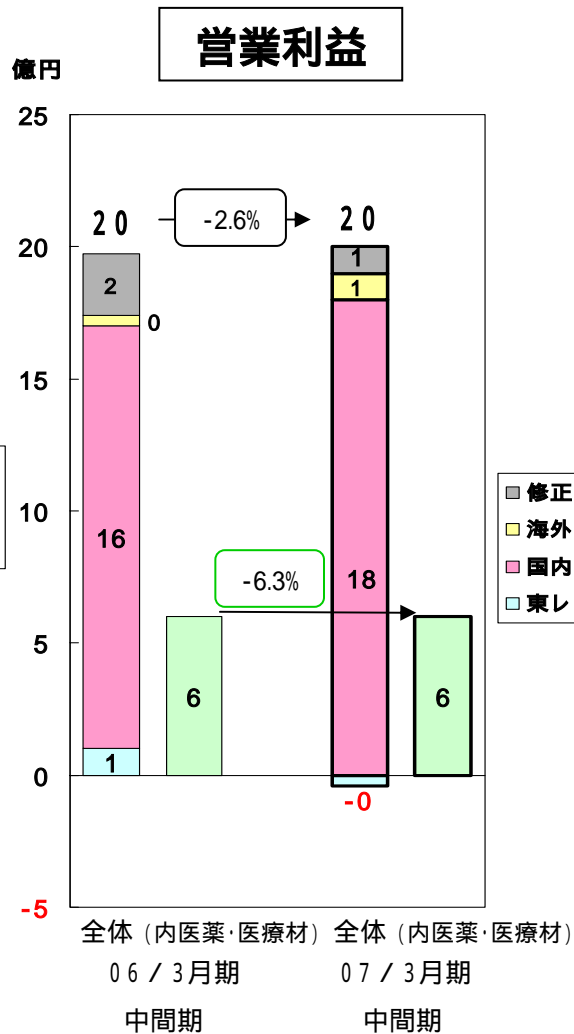
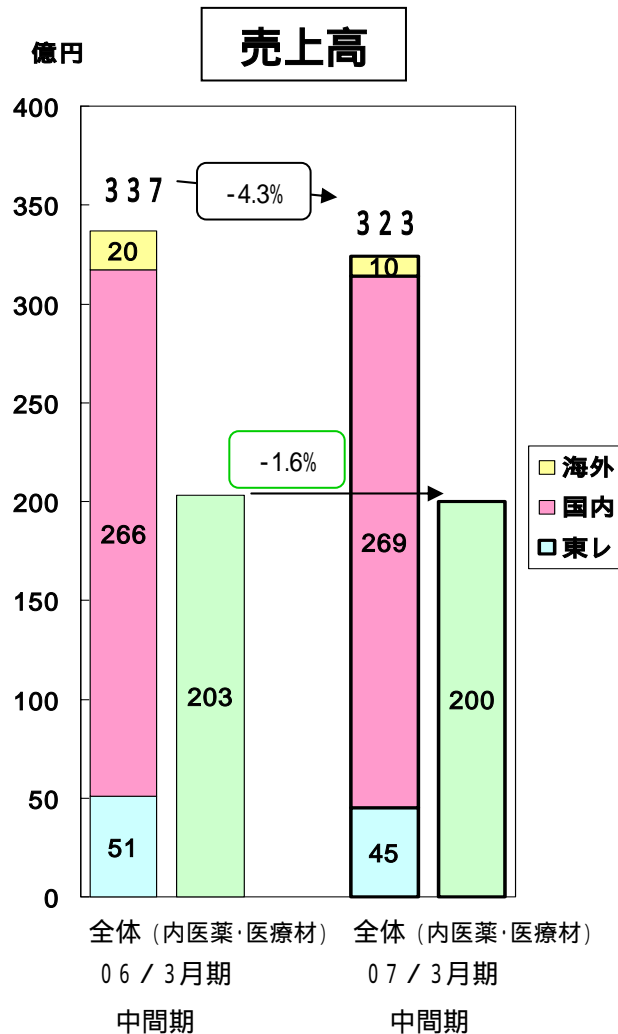
国内子会社

建設子会社、エンジニアリング子会社とも拡販を進め、増収、利益改善。

< 主要子会社 >

国内：東レ建設、東レエンジニアリング、東レACE、水道機工 他

事業セグメント別業績(ライフサイエンスその他)



特記事項

東レ

医薬事業は、“フェロン”が効能追加により販売数量増となるも、薬価改定の影響等により、減収減益。

国内子会社

人工腎臓の拡販等により、増収増益。

< 主要関係会社 >

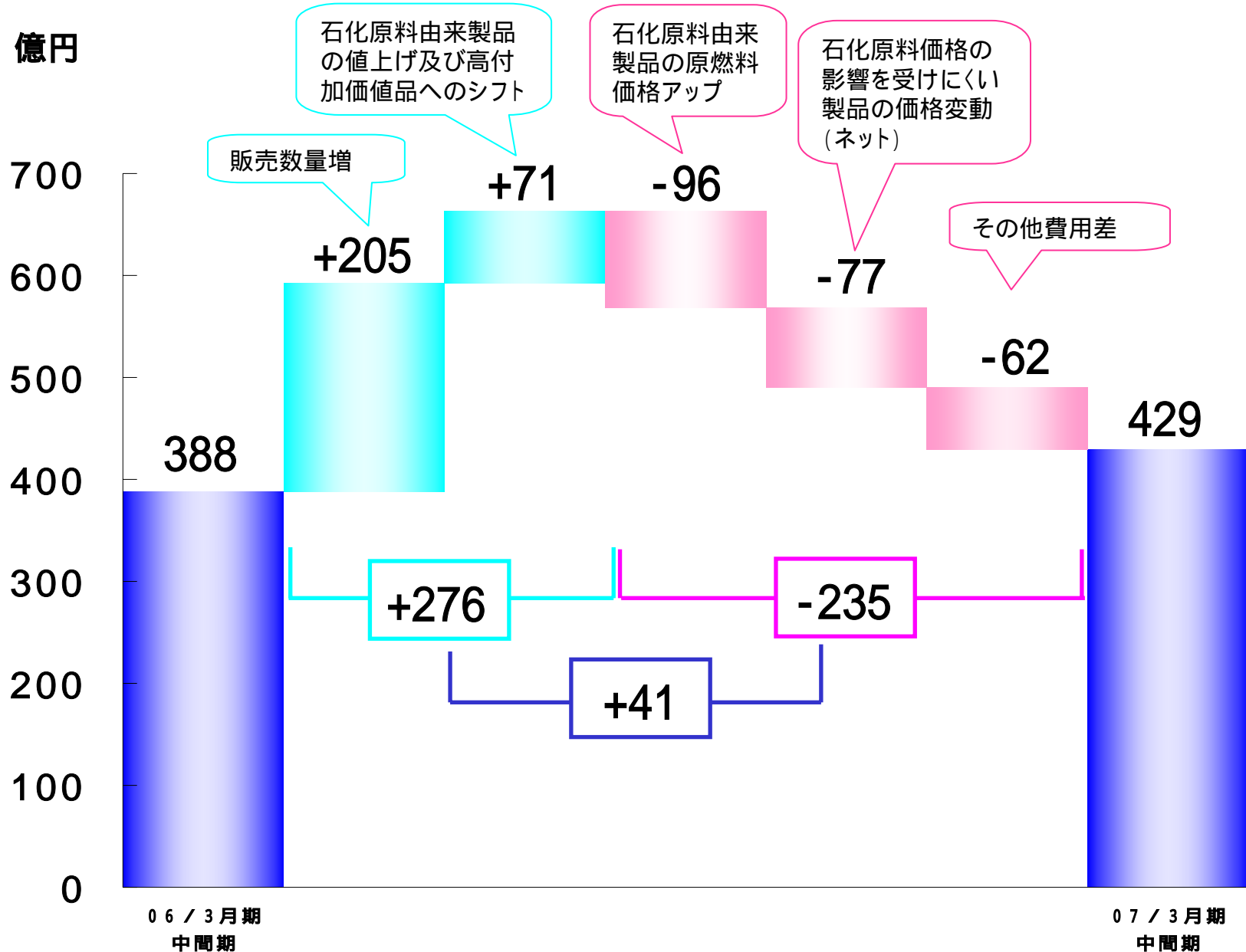
国内：東レ・メディカル、東レリサーチセンター、東レエンタープライズ 他

事業セグメント別1Q時見通しと実績比較

億円

事業セグメント	中間期売上高 1Q見通し 実績 ()内差異	中間期営業利益 1Q見通し 実績 ()内差異	差異理由
繊維	2,900 3,018 (+118)	90 95 (+5)	<ul style="list-style-type: none"> 東レおよび商事子会社のテキスタイル輸出が堅調に推移。 原燃料価格高騰に対する価格転嫁と高付加価値品へのシフトに注力。
プラスチック ・ケミカル	1,750 1,846 (+96)	75 87 (+12)	<ul style="list-style-type: none"> 国内商事子会社、アジアの樹脂・フィルム子会社等が拡販。 原燃料価格高騰に対する価格転嫁と高付加価値品へのシフトに注力。
情報通信材料 ・機器	1,350 1,278 (-72)	155 145 (-10)	<ul style="list-style-type: none"> ユーザーの在庫調整の影響を受け、フィルム加工子会社の回路材料が減速。 IT関連機器の売上の一部が下期にずれ込み。
炭素繊維 複合材料	300 319 (+19)	95 88 (-7)	<ul style="list-style-type: none"> 航空機・産業・スポーツ各用途とも販売は好調に推移。 グローバルオペレーションの増加に伴う未実現利益の消去額の増加等。
環境・エンジニアリング	600 678 (+78)	0 1 (+1)	<ul style="list-style-type: none"> 建設子会社のマンション販売が好調に推移。
ライフサイエンス その他	350 323 (-27)	15 20 (+5)	<ul style="list-style-type: none"> 医薬・医療材は堅調に推移。
消去または全社		0 7 (-7)	
連結	7,250 7,462 (+212)	430 429 (-1)	

営業利益増減要因分析





. 2007年3月期通期見通し

連結業績見通し

億円

		06年3月期 実績	07年3月期 見通し	増減	
売上高	上期	6,788	7,462	+674	(+9.9%)
	下期	7,487	8,038	+551	(+7.4%)
	通期	14,275	15,500	+1,225	(+8.6%)
営業利益	上期	388	429	+41	(+10.5%)
	下期	542	611	+69	(+12.7%)
	通期	930	1,040	+110	(+11.8%)
経常利益	上期	368	405	+37	(+10.1%)
	下期	508	605	+96	(+19.0%)
	通期	877	1,010	+134	(+15.2%)
当期純利益	上期	168	280	+113	(+67.5%)
	下期	307	310	+3	(+1.0%)
	通期	474	590	+116	(+24.4%)

1株当たり 当期純利益	上期	11.96円	20.03円
	下期	21.76円	22.11円
	通期	33.72円	42.14円
1株当たり 配当金	上期	4.0円	5.0円
	下期	4.0円	5.0円
	通期	8.0円	10.0円
配当性向	上期	33.4%	25.0%
	下期	18.4%	22.6%
	通期	23.7%	23.7%

(通期営業利益見通しに対する中間期進捗率)

	06年3月期 中間期	07年3月期 中間期
中間期営業利益	388	429
通期営業利益 06年3月期は実績 07年3月期は見通し	930	1,040
中間期進捗率	41.7%	41.3%

想定為替レート(2006年10月～2007年3月): 115円/US\$、145円/ユーロ
 想定原油価格:(2006年10月～2006年12月) 62US\$/B(ドバイFOB)
 (2007年1月～2007年3月) 65US\$/B(ドバイFOB)

事業セグメント別業績見通し (売上高 / 営業利益)

億円

		売上高				営業利益				特記事項
		06年 3月期	07年 3月期	増減 (%)		06年 3月期	07年 3月期	増減 (%)		
繊維	上期	2,887	3,018	+131 (+4.5%)	104	95	-9 (-8.6%)	原燃料価格が高値圏で推移する等、厳しい環境の中、価格転嫁及び高付加価値品へのシフトを進めるも、上期の営業利益の落ち込みをカバーできず、前期比増収なるも減益の見通し。		
	下期	2,918	3,032	+114 (+3.9%)	103	105	+2 (+2.0%)			
	通期	5,805	6,050	+245 (+4.2%)	207	200	-7 (-3.3%)			
プラスチック・ケミカル	上期	1,588	1,846	+258 (+16.2%)	86	87	+0 (+0.5%)	原燃料価格が高値圏で推移するも、自動車用途の樹脂や包装材料・工業材料用のフィルム及びフィルム加工品の拡販を進めるとともに、価格転嫁も進め、前期比増収増益の見通し。		
	下期	1,791	1,904	+113 (+6.3%)	99	108	+10 (+9.9%)			
	通期	3,380	3,750	+370 (+11.0%)	185	195	+10 (+5.5%)			
情報通信材料・機器	上期	1,111	1,278	+166 (+15.0%)	131	145	+14 (+10.9%)	上期にLCDパネルの在庫調整があったものの、回復基調にあるLCD、及び堅調に拡大しているPDP向け部材の拡販を進めるとともに、下期から稼働を開始した光学用厚物PETフィルムの改造ラインの増産・増販効果もあり、前期比増収増益の見通し。		
	下期	1,239	1,472	+234 (+18.9%)	182	205	+23 (+12.7%)			
	通期	2,350	2,750	+400 (+17.0%)	313	350	+37 (+11.9%)			
炭素繊維複合材料	上期	244	319	+75 (+30.7%)	59	88	+29 (+49.8%)	航空機、一般産業、スポーツ全用途での旺盛な需要に加え、米国子会社の増産・増販効果もあり、前期比増収増益の見通し。		
	下期	283	381	+98 (+34.6%)	59	87	+27 (+46.3%)			
	通期	527	700	+173 (+32.8%)	118	175	+57 (+48.1%)			
環境・インフラ	上期	619	678	+59 (+9.5%)	12	1	+13 (-)	逆浸透膜の拡販を進めることに加え、建設子会社、エンジニアリング子会社が堅調に推移し、前期比増収増益の見通し。		
	下期	922	922	-0 (-0.0%)	61	49	-12 (-19.8%)			
	通期	1,541	1,600	+59 (+3.8%)	49	50	+1 (+1.6%)			
ライフインスその他	上期	337	323	-14 (-4.3%)	20	20	-1 (-2.6%)			
	下期	334	327	-7 (-2.0%)	44	50	+6 (+13.5%)			
	通期	671	650	-21 (-3.2%)	65	70	+5 (+8.5%)			
(内医薬・医療材)	上期	203	200	-3 (-1.6%)	6	6	-0 (-6.3%)	人工臓器を中心とする医療材の拡販により前期比増収増益の見通し。		
	下期	232	250	+18 (+7.8%)	26	34	+8 (+32.5%)			
	通期	435	450	+15 (+3.4%)	32	40	+8 (+24.7%)			
計	上期	6,788	7,462	+674 (+9.9%)	388	436	+47 (+12.2%)			
	下期	7,487	8,038	+551 (+7.4%)	548	604	+56 (+10.3%)			
	通期	14,275	15,500	+1,225 (+8.6%)	936	1,040	+104 (+11.1%)			
消去又は全社	上期				0	7	-7			
	下期				6	7	+13			
	通期				6	0	+6			
連結	上期	6,788	7,462	+674 (+9.9%)	388	429	+41 (+10.5%)			
	下期	7,487	8,038	+551 (+7.4%)	542	611	+69 (+12.7%)			
	通期	14,275	15,500	+1,225 (+8.6%)	930	1,040	+110 (+11.8%)			

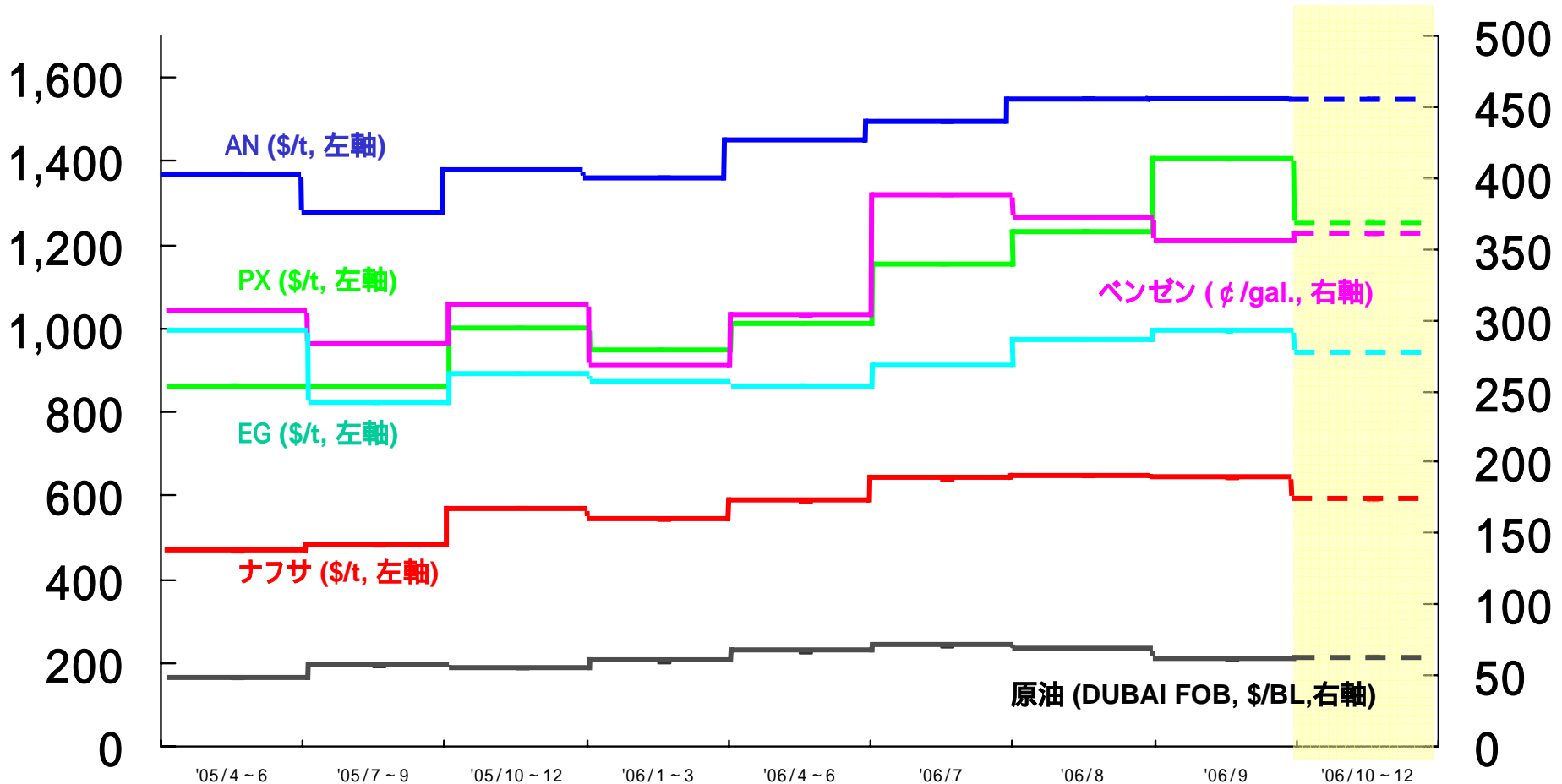
事業セグメント別上下営業利益比較

億円

事業セグメント	営業利益 上期 下期 ()内差異	事業環境	下期のアクションプラン
繊維	95 105 (+10)	<ul style="list-style-type: none"> 原燃料価格の更なる高騰懸念 	<ul style="list-style-type: none"> 更なる価格転嫁と高付加価値品への転換の推進
プラスチック ・ケミカル	87 108 (+21)	<ul style="list-style-type: none"> 原燃料価格の更なる高騰懸念 アジアにおける薄物汎用フィルムの増産による価格低下懸念 樹脂の需要は自動車・電機用途を中心に堅調に推移 	<ul style="list-style-type: none"> 更なる価格転嫁と高付加価値品への転換の推進 上期に完成したマレーシアPETフィルム新ラインの稼働に伴う拡販
情報通信材料 ・機器	145 205 (+60)	<ul style="list-style-type: none"> 液晶パネルの生産調整は回復基調 値下げ圧力の継続 半導体市場は堅調に推移 	<ul style="list-style-type: none"> 上期にマシン改造が完了し、生産能力が増加した光学用フィルムの拡販 PDP関連材料や半導体関連材料の拡販
炭素繊維 複合材料	88 87 (-1)	<ul style="list-style-type: none"> 各用途とも需要は引き続き旺盛 2007年1月稼働開始予定の愛媛工場新ラインの費用増 	<ul style="list-style-type: none"> 愛媛工場の新ラインの確実な立ち上げ
環境・ エンジニアリング	1 49 (+48)	<ul style="list-style-type: none"> マンション・建設の大型物件が下期に集中 水道機工は下期型ビジネス 	<ul style="list-style-type: none"> 受注案件のプロジェクト管理徹底 原価低減努力、営業費削減努力の継続的な実施
ライフサイエンス その他	20 50 (+30)	<ul style="list-style-type: none"> 医薬・医療材事業は下期型 	<ul style="list-style-type: none"> 既存医薬品の着実な拡販 人工腎臓新製品の拡販
消去または全社	7 7 (+14)		
連結	429 611 (+182)		

原料価格の見通し

原油価格は、8月以降下落傾向にあるが、主要原料の価格は、9月まで上昇を続けた。10月以降もやや下落傾向にあるものの引き続き高値圏で推移する見通し。

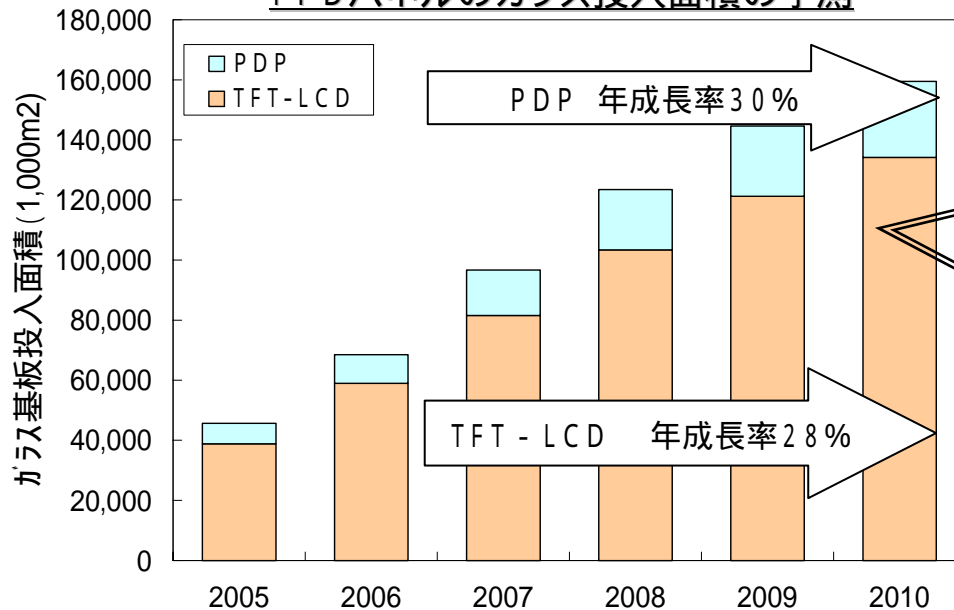


情報通信材料・機器事業の見通し

当年度上期は、LCDパネルの生産調整の影響を受けるも、通期ではディスプレイ材料、電子部品・半導体・回路材料が牽引役となり、成長を持続する見通し。中長期的にも、FPDパネル、電子部品・半導体・電子回路等のデバイスの需要拡大とお客様とのパートナーシップを強化することにより、既存事業の拡大を進める。加えて、競争力のある新規先端材料事業を拡大し、成長を加速させる。

【ディスプレイ材料、電子部品・半導体・回路材料の事業拡大】

FPDパネルのガラス投入面積の予測



FPDパネル需要の拡大
+
有力なお客様とのパートナーシップ強化
↓
PDP関連材料、LCD関連材料
FPD関連装置の拡大

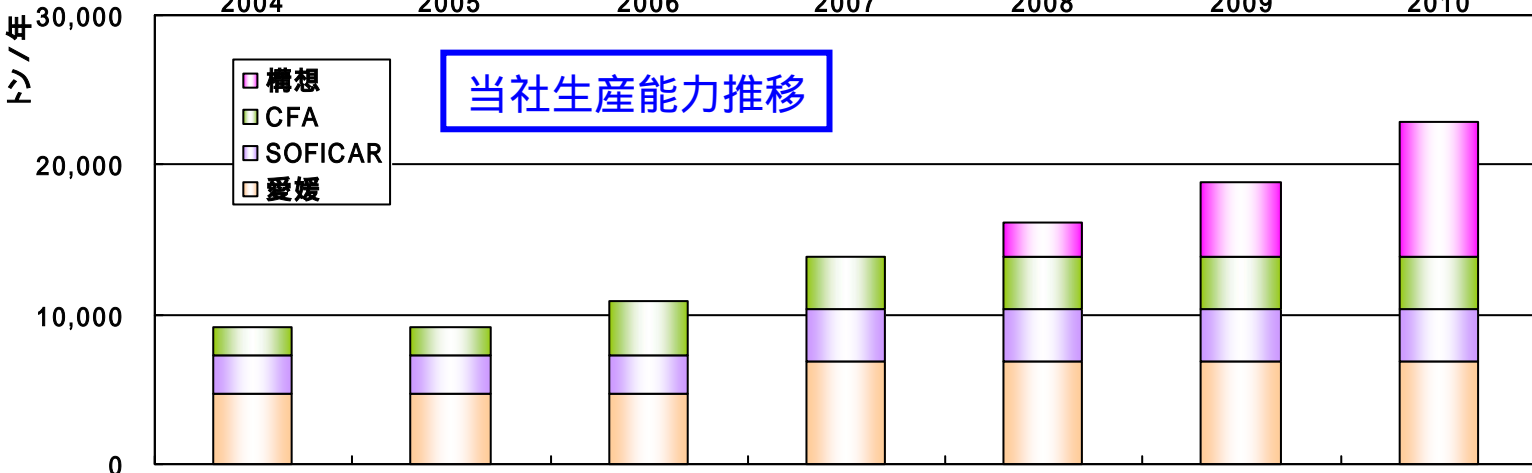
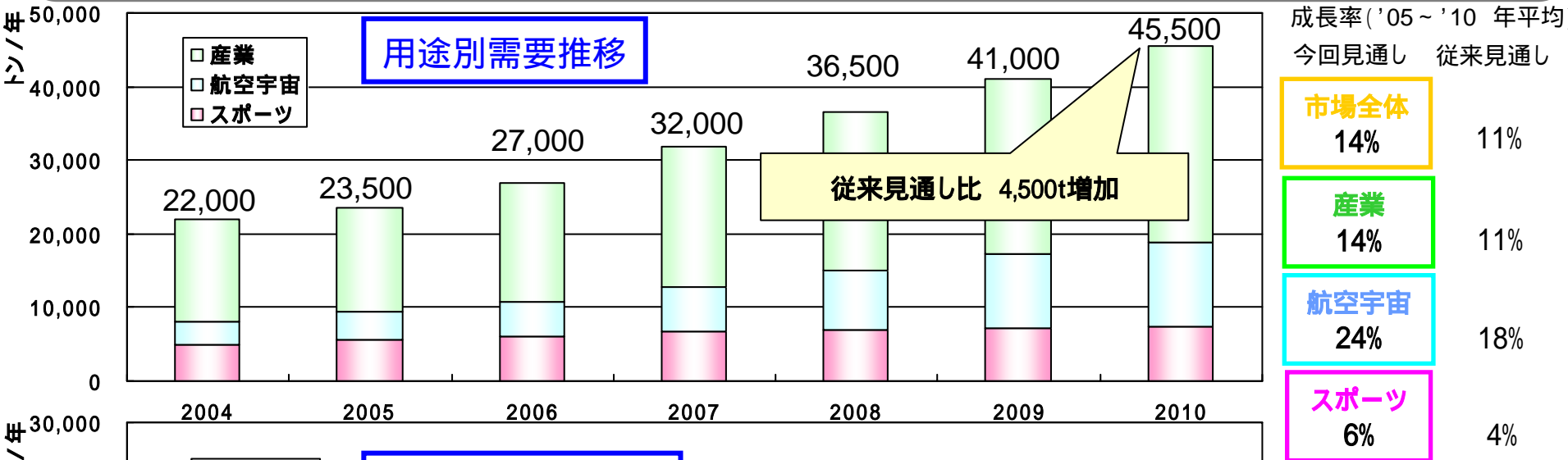
+
PC、携帯電話、デジタル家電等の需要
拡大・高度化に伴い、電子部品・半導
体・回路材料も拡大

【新規先端材料事業の拡大(新規先端材料例)】

- CMPパッド(特長:平坦化特性に優れ、ウェハ表面の研磨傷の発生を格段に低減)
- 高密度IC実装用フィルム基板(特長:12μmピッチという世界最高配線密度を実現)
- LCDバックライト用機能統合フィルム(特長:乳白板、ビーズシートを統合)他

炭素繊維用途別需要推移と当社生産能力推移

B787の受注増を中心とした航空機需要の更なる拡大、原油価格高騰による石油代替エネルギー関連用途(CNGタンク、風車など)、自動車用途での需要増、自転車用途の急拡大等により、炭素繊維の需要は従来見通していた成長率を上回る見通し。この需要拡大に対応し、今後も積極的な設備投資を継続し、収益拡大を推進。



設備投資額・減価償却費・研究開発費見通し

設備投資額

億円

	06/3月期 実績	07/3月期 見通し	増減
東レ単体	428	530	+102
連結子会社	601	670	+69
連結ベース	1,029	1,200	+171

研究開発費

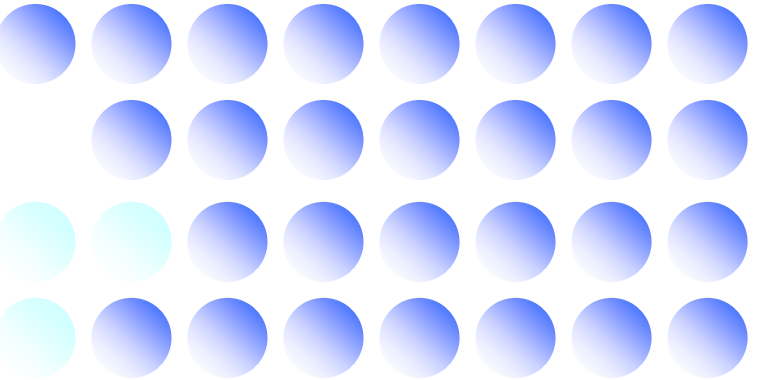
億円

	06/3月期 実績	07/3月期 見通し	増減
東レ単体	326	340	+14
連結子会社	71	80	+9
連結ベース	397	420	+23

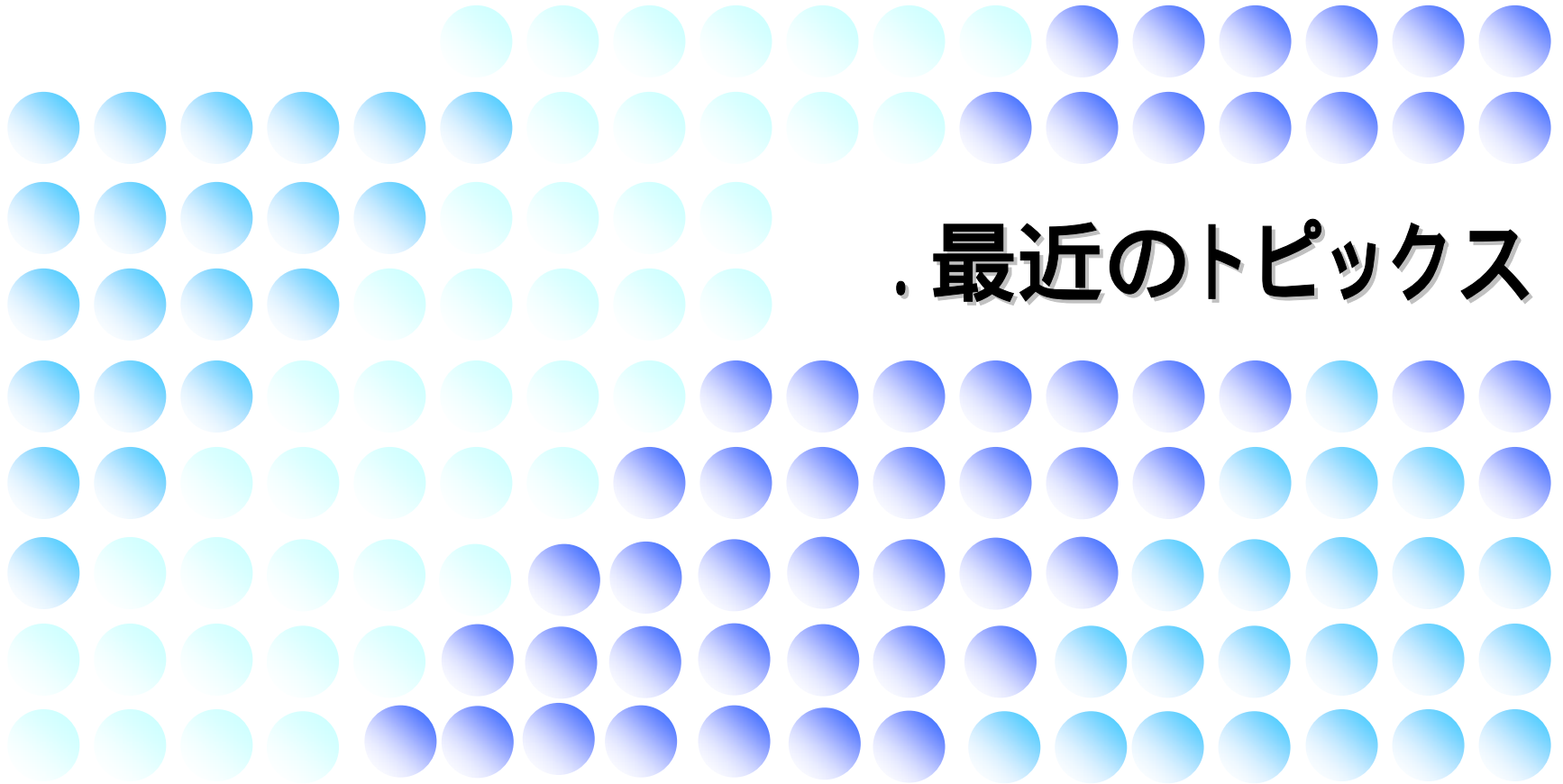
減価償却費

億円

	06/3月期 実績	07/3月期 見通し	増減
東レ単体	261	320	+59
連結子会社	367	420	+53
連結ベース	629	740	+111



・最近のトピックス



最近のトピックス (06/8 ~ 06/9)

時期	トピックス	NT- の施策			
		先端材料 事業拡大	ナノバ ¹ -One 事業拡大	海外事業 拡大	事業構造 改革, NVC
8月	<p>中国での高機能ポリプロピレン長繊維不織布新会社の設立</p> <p>中国において、高機能ポリプロピレン長繊維不織布(PPスパンボンド)およびその高次加工品の生産・販売を行う新会社を設立することを決定。新会社名は「東麗高新聚化(南通)有限公司」(略称 TPN)(仮称)で、中国江蘇省南通市の経済技術開発区内で2006年12月に設立し、2008年2月から操業を開始する予定(生産能力:年産18,000t)。</p>				
9月	<p>「TRK-820」についての肝疾患に伴う掻痒症を適応症とする共同開発及び販売に関する契約を締結</p> <p>日本たばこ産業株式会社殿および鳥居薬品株式会社殿と東レは、東レの医薬研究所で研究開発し、現在、国内の血液透析患者における掻痒症を適応症として共同開発中にある止痒薬「TRK-820」(東レ開発番号)について、新たに、国内における肝疾患に伴う掻痒症を適応症とする共同開発及び販売に関する契約を締結。</p>				
9月	<p>LCDバックライト用機能統合フィルムの開発に成功</p> <p>液晶ディスプレイ(LCD)のバックライト(光源)に用いられる複数の光学フィルムの機能を統合した革新的な光学用PETフィルムの開発に世界で初めて成功。本フィルムにより、バックライトの光線を画面全体に広げる拡散板(乳白板)をはじめ、集光機能を持つピーズシートやプリズムシートなどを1枚のフィルムにまとめることが可能となる。LCDの軽量化や部品点数の削減に寄与できる先端フィルム材料として、本年度末から大型液晶テレビのバックライト用途を中心に本格展開。</p>				
9月	<p>金属を用いず金属光沢調・易成形フィルムの開発に成功</p> <p>当社独自のナノ積層技術とポリマー設計技術を融合し、金属を用いない金属光沢調・易成形フィルムの開発に世界で初めて成功。今回開発した「金属光沢・易成形フィルム」は、異種のポリマーを800層以上の非常に多い層数を高精度に積層することで、金属を用いずに光を高輝度で反射し、金属並の光沢を発現。本開発フィルムは、耐熱性、耐薬品性、印刷性、表面性等にも優れ、各種工業材料用途、特に自動車、家電、建材用途に幅広く展開が可能。</p>				

最近のトピックス (06/10)

時期	トピックス	NT- の施策			
		先端材料 事業拡大	ナノ'-One 事業拡大	海外事業 拡大	事業構造 改革, NVC
10月	<p>世界初の溶融紡糸セルロース系繊維“フォレッセ (Foresse)”による環境配慮型テキスタイルを開発</p> <p>世界で初めて「溶融紡糸法」による製造を可能にしたセルロース系新規繊維“フォレッセ”を使用し、従来のセルロース系繊維の域を超えた特長あるテキスタイルを創出することに成功。“フォレッセ”は、石化原料ではなく植物由来のセルロースを原料とし、更に紡糸工程で有機溶媒を使用しない「溶融紡糸法」で製造することから、環境に優しいという特長を有する。</p>				
10月	<p>韓国で電子回路用の基板フィルムを事業化</p> <p>韓国で電子回路用のフレキシブル基板フィルムを現地生産することを決定。韓国子会社の東レセハン株式会社、総額約30億円を投じて、高密度電子回路用電解メッキ法2層型フレキシブル基板フィルム“メタロイヤル”の生産設備を新設。生産能力は年70万平方メートル(COF標準品換算)で、平成19年10月からの稼働開始を目指す。平成23年度には“メタロイヤル”のグループ売上高を現在の3倍にあたる180億円に拡大する計画。</p>				
10月	<p>PDP用感光性ペーストの生産設備の増設について</p> <p>PDP(プラズマディスプレイ)用感光性ペースト事業について、生産設備の増設を決定。松下電器 産業株式会社と当社の合併事業である松下プラズマディスプレイ株式会社が現在、兵庫県尼崎市に建設を進めている世界最大規模の新工場(第4工場)に対応するため、当社の滋賀事業場(滋賀県大津市)で、月産205トンの生産設備を増設し、現状の2,700トン/年(225トン/月)から5,160トン/年(430トン/月)へ増強。2007年7月に第1期の稼働を開始し、2008年2月にフル稼働を予定。</p>				
10月	<p>世界最高レベルのタンパク質解析技術を開発し、新規の癌マーカーを発見</p> <p>血液中のタンパク質を世界最高レベルの感度で検出可能なタンパク質解析技術と、京都大学大学院医学研究科の高度な医療・解析技術を融合させることにより、これまで癌との関連性が知られていなかった、血液中に極微量に存在するタンパク質と癌との関連性を解明。更に、膀胱癌においては癌の早期診断に役立つ「マーカータンパク質」が尿中から検出可能であることを世界に先駆けて発見。</p>				

最近のトピックス (06/10)

時期	トピックス	NT- の施策			
		先端材料 事業拡大	ナンバーOne 事業拡大	海外事業 拡大	事業構造 改革, NVC
10月	<p>高機能樹脂PPS、LCPの生産設備を増強</p> <p>高機能樹脂のPPS(ポリフェニレンサルファイド)“トレリナ”とLCP(液晶ポリマー)“シベラス”について生産設備の増強を決定し、建設を開始。当社東海工場(愛知県東海市)に年産2,500トンのPPS樹脂重合設備、および愛媛工場(愛媛県松前町)に年1,000トンのLCP樹脂重合設備をそれぞれ増設。総投資額は約40億円で、2007年12月から稼働開始を目指す。今回の増設により、PPS樹脂の年産能力は11,500トンに、LCP樹脂は現有能力倍増の年2,000トンに拡大。</p>				



参考資料

中国での高機能ポリプロピレン長繊維不織布新会社の設立

中国において、高機能ポリプロピレン長繊維不織布(PPスパンボンド)およびその高次加工品の生産・販売を行う新会社を設立することを決定。新会社名は「東麗高新聚化(南通)有限公司」(略称 TPN)(仮称)で、中国江蘇省南通市の経済技術開発区内で2006年12月に設立し、2008年2月から操業を開始する予定(生産能力:年産18,000t)。

特長

- ・最新鋭マシンによる生産
- ・中国国産品だけでは不足している
- ・高機能PPスパンボンドの現地生産
- ・事業基盤を確立している南通地区での展開

用途

- ・紙おむつ等の衛生材料用途



- ・手術用のガウンや覆い布等のメディカル用途
- ・その他工業資材、農業資材用途

東レグループのPPスパンボンドの生産能力

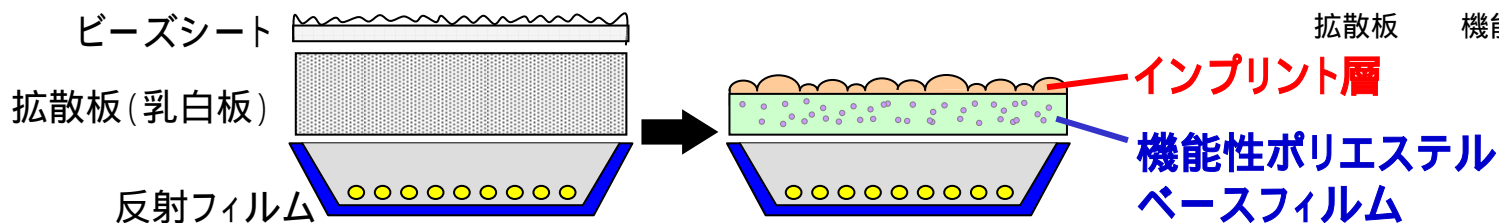
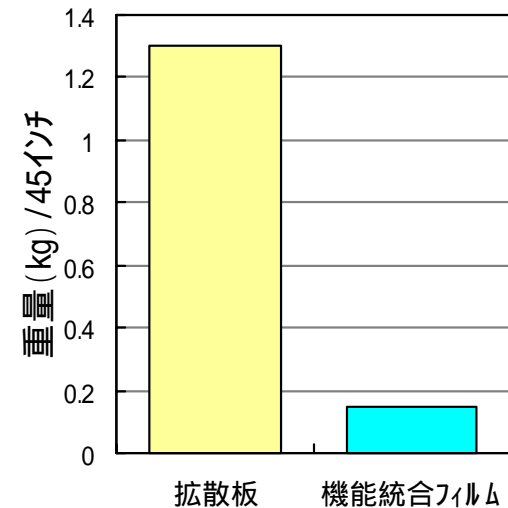


供給能力合計67,000トンは
アジアでトップクラス

LCDバックライト用機能統合フィルムの開発に成功

液晶ディスプレイ(LCD)のバックライト(光源)に用いられる複数の光学フィルムの機能を統合した革新的な光学用PETフィルムの開発に世界で初めて成功。本フィルムにより、バックライトの光線を画面全体に広げる拡散板(乳白板)をはじめ、集光機能を持つビーズシートやプリズムシートなどを1枚のフィルムにまとめることが可能となる。LCDの軽量化や部品点数の削減に寄与できる先端フィルム材料として、本年度末から大型液晶テレビのバックライト用途を中心に本格展開。

	拡散板 + ビーズシート (等方拡散性)	機能統合フィルム (異方拡散性)
明るさ		
画面均一性		
薄膜性	×	
軽量性	×	



大型液晶TVの直下型バックライトユニット用途がメインターゲット

金属を用いず金属光沢調・易成形フィルムの開発に成功

当社独自のナノ積層技術とポリマー設計技術を融合し、金属を用いない金属光沢調・易成形フィルムの開発に世界で初めて成功。今回開発した「金属光沢・易成形フィルム」は、異種のポリマーを800層以上の非常に多い層数を高精度に積層することで、金属を用いずに光を高輝度で反射し、金属並の光沢を発現。本開発フィルムは、耐熱性、耐薬品性、印刷性、表面性等にも優れ、各種工業材料用途、特に自動車、家電、建材用途に幅広く展開が可能。

従来の金属光沢調材料の課題

- ・金属成分を含んでいるため、電磁波をほとんど透過しない
- ・成形性が十分でない
- ・代表的な加飾方法であるメッキの場合、重金属を使用することもある

今回開発した「金属光沢・易成形フィルム」

- ・当社独自のナノ積層技術により、高精度に数百～数千の層数で積層することにより、自然な金属光沢調を発現
- ・新規ポリマーにより、層間接着性、成形性を実現
- ・環境低負荷の金属光沢調材料



電磁波透過・易成形・環境低負荷のため、携帯電話、家電、自動車への応用が可能

韓国で電子回路用の基板フィルムを事業化

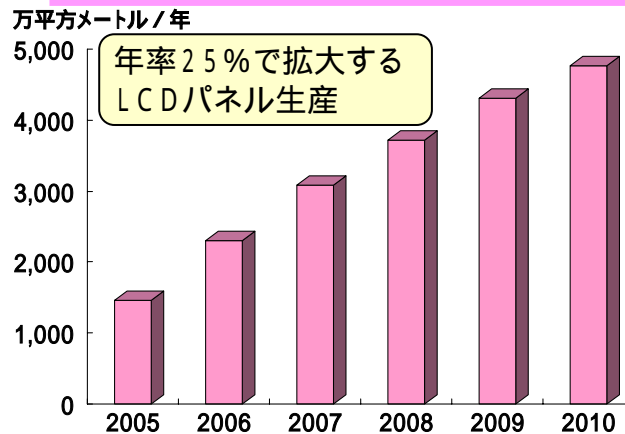
韓国で電子回路用のフレキシブル基板フィルムを現地生産することを決定。韓国子会社の東レセハン株式会社に、総額約30億円を投じて、高密度電子回路用電解メッキ法2層型フレキシブル基板フィルム“メタロイヤル”の生産設備を新設。生産能力は年70万平方メートル(COF標準品換算)で、平成19年10月からの稼働開始を目指す。平成23年度には“メタロイヤル”のグループ売上高を現在の3倍にあたる180億円に拡大する計画。

韓国での**大型液晶パネル**の生産量拡大

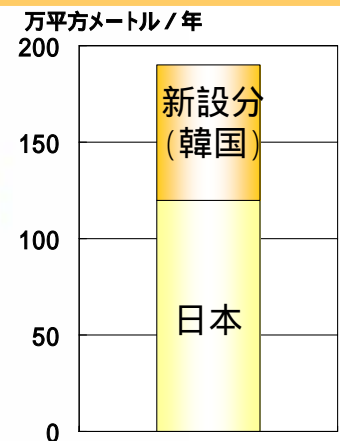
韓国市場における**2層型基板フィルム**の需要急増

現地生産により迅速なユーザー対応が可能に

韓国におけるTFT LCDガラス基板投入面積



“メタロイヤル”生産能力

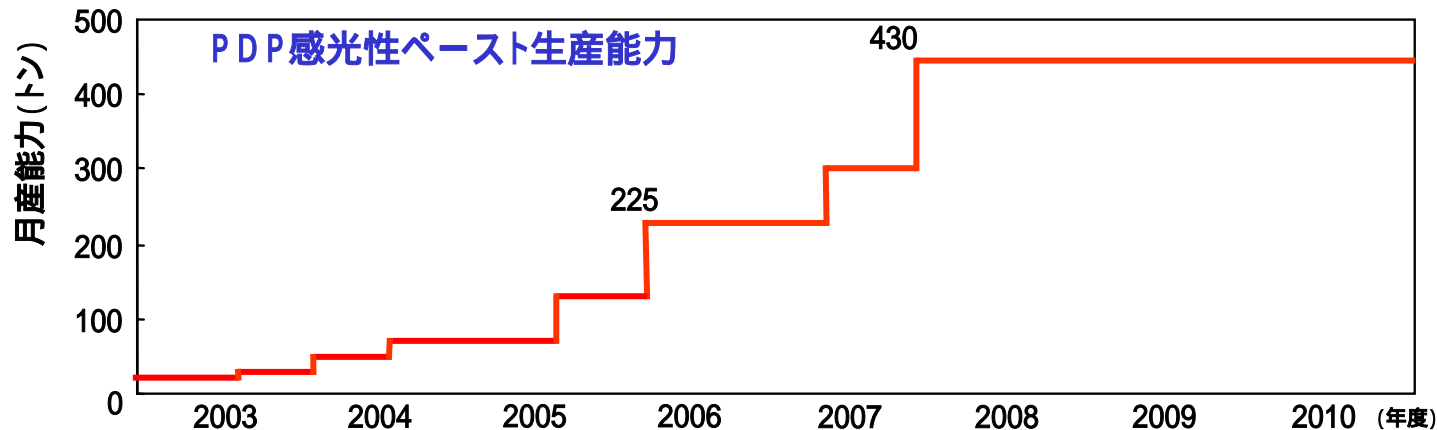
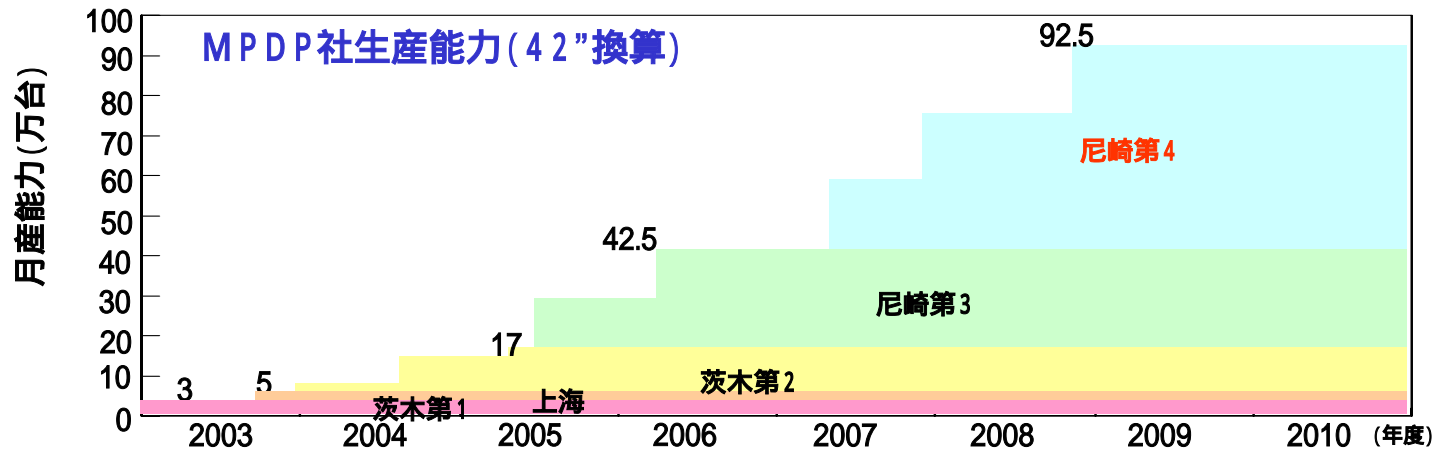


“メタロイヤル”の世界シェア

2005年度の約15%から、2011年度には50%超を目指す

PDP用感光性ペーストの生産設備を増設

PDP(プラズマディスプレイ)用感光性ペーストの生産設備増設を決定。松下電器産業株式会社殿と当社の合併事業である松下プラズマディスプレイ株式会社が現在、兵庫県尼崎市に建設を進めている世界最大規模の新工場(第4工場)に対応するため、当社の滋賀事業場(滋賀県大津市)で、月産205トンの生産設備を増設し、現状の2,700トン/年(225トン/月)から5,160トン/年(430トン/月)へ増強。2007年7月に第1期の稼働を開始し、2008年2月にフル稼働を予定。



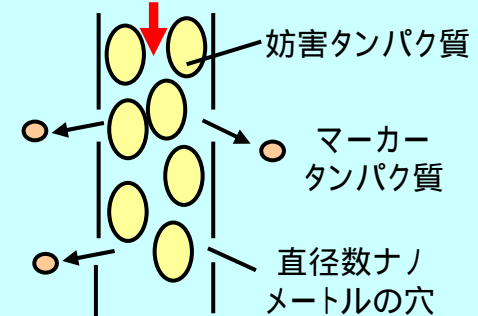
世界最高レベルのタンパク質解析技術を開発し、新規の癌マーカーを発見

血液中のタンパク質を世界最高レベルの感度で検出可能なタンパク質解析技術と、京都大学大学院医学研究科の高度な医療・解析技術を融合させることにより、これまで癌との関連性が知られていなかった、血液中に極微量に存在するタンパク質と癌との関連性を解明。更に、膀胱癌においては癌の早期診断に役立つ「マーカータンパク質」が尿中から検出可能であることを世界に先駆けて発見。

血液中に含まれるタンパク質のうち、**1%のみ**が疾患の原因や指標になる**マーカータンパク質**

残り**99%**はタンパク質分析の**妨害成分**であり、分離除去する技術の開発が課題

直径数ナノメートルの穴を持つ**中空糸膜**を使用した、当社開発の**分画デバイス**により、短時間に**妨害タンパク質**を除去し、**マーカータンパク質**を選択的に回収。



- ・これまでに癌との関係が知られていない**70種**のタンパク質が、**癌特異的に検出**されることを発見。
- ・膀胱癌患者の尿中に存在するタンパク質を用いることにより、**膀胱癌**の発症を早期の段階から**60%以上の確率**で判定可能であることを世界で初めて発見。

高感度・高精度に**癌の検査・診断**ができる、**マーカータンパク質**を用いた**バイオツール**を開発中。
(研究・開発向けは2年後、臨床向けは5年後の上市を目標)

高機能樹脂PPS、LCPの生産設備を増強

高機能樹脂のPPS(ポリフェニレンサルファイド)“トレリナ”とLCP(液晶ポリマー)“シベラス”について生産設備の増強を決定し、建設を開始。当社東海工場(愛知県東海市)に年産2,500トンのPPS樹脂重合設備、および愛媛工場(愛媛県松前町)に年1,000トンのLCP樹脂重合設備をそれぞれ増設。総投資額は約40億円で、2007年12月からの稼働開始を目指す。今回の増設により、PPS樹脂の年産能力は11,500トンに、LCP樹脂は現有能力倍増の年2,000トンに拡大。

PPS樹脂
世界需要4万トン
(市場成長率
年率7%)

当社PPS樹脂の主な用途

樹脂: 電機・電子機器部品、
自動車電装部品

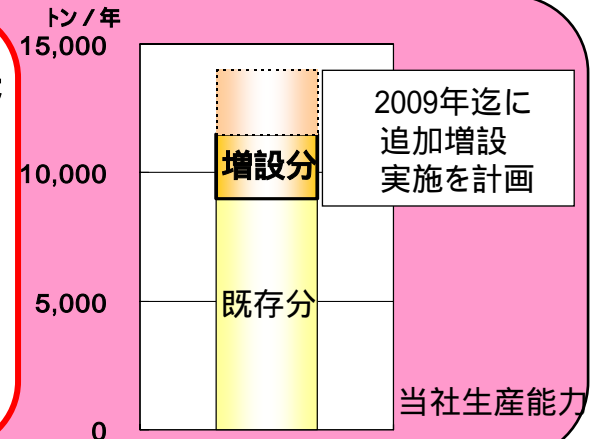
フィルム: 携帯電話用コンデンサ、
FPD用高機能フィルム

繊維: 火力発電所向けフィル
ター、モーター結束糸等



当社PPS事業の特長

樹脂コンパウンドにとど
まらず、フィルム、繊維
の各分野にも事業展開
する総合PPSメーカー



LCP樹脂
世界需要2万トン
(市場成長率
年率10%)

当社LCP樹脂の主な用途

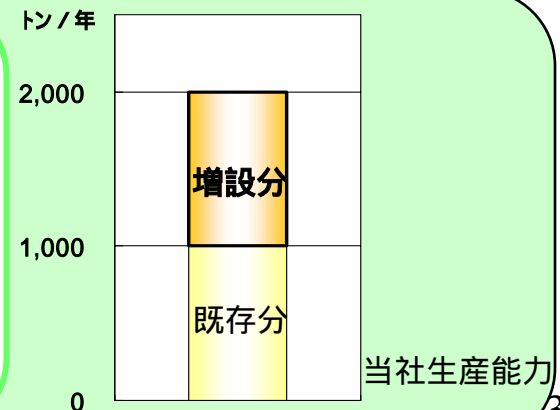
電子部品: ファインピッチコネクタ、
センサー、HDD部品、
CDピックアップ部品
等

自動車部品: 電気制御部品等



当社LCP事業の特長

当社LCP樹脂の特長で
ある、良流動性が要求さ
れる市場に特化し、携帯
電話等に使用されるファ
インピッチコネクタにお
いて高シェアをキープす
る「ニッチトップ」



本資料中の2007年3月期の業績見通し及び事業計画・将来展望についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。